

老朽化対策パネル展 開催状況

道の駅「三本木」「あ・ら・伊達な道の駅」「上品の郷」



▲道の駅「三本木」の開催状況（6/24～7/3）



▲道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」の開催状況（7/4～7/13）



▲道の駅「上品の郷」の開催状況（7/14～7/23）



<Facebookの反応(H26.8.29時点)>

閲覧者 計1,405件

いいね！ 計145件

コメント抜粋:

・社会資本の老朽化対策は、建設関係者の間では認知されていますが、一般の市民には十分に伝えられていないように感じています。

このような企画を通して、多くの人に知らされることは良いことですね。

東北大学 学部学生及び大学院生による橋梁点検実習を実施しました。 ～～近接目視、打音検査等を体験～～

平成26年8月5日、東北大学の大学生及び大学院生により、仙台市青葉区芋沢権現森山地内の「龍沢橋」において、近接目視や打音による橋梁点検実習を実施しました。

平成26年7月1日より国土交通省令が施行され、トンネル・橋等の点検は、点検の質を確保するため、近接目視により5年に1回の頻度で定期点検を実施することになりましたが、多くの市町村や企業においては、技術者の不足や、専門的な技術力の不足などが大きな課題となっております。



このため、道路インフラのメンテナンスに将来関わりが期待される土木技術系の大学生を対象に、点検を通して維持管理の重要性や老朽化対策に関する理解を深めていただくため、橋梁点検実習を実施したものです。

今回は1月15日に「インフラマネジメント研究センター」を設置した東北大学の大学生及び大学院生により、仙台市内の橋梁において実施しました。

■参加者：東北大学工学部建築・社会環境工学科の学部学生 3名
東北大学大学院工学研究科・土木工学専攻の大学院生 5名

■主催：宮城県道路メンテナンス会議の構成機関である国・県・仙台市と、東北大学の共同

■点検橋梁：主要地方道 仙台北環状線「龍沢橋(たつざわばし)」 ※仙台市管理
橋長49.0m、幅員24.0m(4車線)、橋梁形式＝単純鋼合成鈹桁橋
竣工1982(S57)年、築32年経過

■実習内容：①点検ハンマーを使用した打音による橋台(下部工)の点検
②近接目視による橋台のひび割れ状況確認
③近接目視による鋼桁や支承等の腐食状況確認



▲浜岡企画官による実習主旨説明



▲下部工の打音による点検状況



▲下部工のひび割れ幅測定状況



▲桁端部の腐食状況確認



▲職員による鉄筋探査実演状況



▲久田教授による橋梁保全の説明

橋梁点検の現地研修会を開催しました

～～点検研修を通じて橋梁保全の技術力向上～～

平成26年9月10日、宮城県内の道路の維持管理業務に携わる市町村職員を対象に、宮城県橋梁点検要領などを学ぶ「座学研修」と、リフト車などを使用した近接目視や打音による橋梁点検技術を学ぶ「現場研修」を実施しました。

橋梁等の点検は近接目視により5年に1回の頻度を基本とする「道路法施行規則の一部を改正する省令ほか」が7月1日より施行されました。

また、6月10日に、道路インフラの予防保全、老朽化対策の取り組みに対する体制強化を図るため、宮城県内の道路管理者からなる「宮城県道路メンテナンス会議」を発足し、道路施設の老朽化対策に取り組んでおります。

その一環として、橋梁の老朽化対策と長寿命化に必要な知識の習得と点検技術力向上を目的に『橋梁点検の現地研修会』を実施したものです。



■参加者：宮城県内市町村担当職員 47名

■主催：宮城県道路メンテナンス会議

■月日・会場：平成26年9月10日(水)

(座学研修) 仙台河川国道事務所3F会議室(仙台市太白区あすと長町4-1-60)

(現場研修) 国道4号 名取大橋(仙台市太白区中田地内)

■座学研修：橋梁の損傷と点検のポイント 等

■現場研修：①桁端部点検(橋台打音検査、ひび割れ状況確認、支承の腐食状況確認)

②橋脚点検(柱部・張出し部・沓座の打音検査、沓座ひび割れ状況確認)

③床版・主桁点検(床版の打音検査、ひび割れ状況確認、主桁腐食状況確認)



▲座学の状況



▲桁端部の状況確認



▲沓座の打音検査



▲橋脚張出し部の打音検査



▲主桁の腐食状況確認



▲床版の打音検査